

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年1月15日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100330		
法人名	株式会社 シーフォークリエイツ		
事業所名	グループホーム 山ぼうし		
所在地	広島市安佐北区白木町大字秋山字原890番地 (電話) 082-828-7636		
自己評価作成日	令和2年12月11日	評価結果市町受理日	令和 年 月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kajikensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=3490100330-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県安芸郡海田町堀川町 1番8号
訪問調査日	令和3年1月15日(金)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所が力を入れている事は、入居者を第一に考え、元気に安心して生活が送れるように、協力医と連携し、入居者の健康管理を行い、安心して過ごせるように努めています。また、入居者が楽しんで頂けるように、外部からの民謡・歌謡クラブのボランティアをお呼びし行事を行ったり、湧永庭園への外出行事をしたり、色々な行事を企画し毎年行っていたが、この度、新型コロナウイルス流行により、外部との接触を避ける為、例年行っていた行事が出来ず、施設内でできる行事を考え実施している。職員では、地域との関りを大切に考えている為、認知症ボーター養成講座で、小学校や中学校や地域の集会所等に出向き、地域包括支援センターと協力し、認知症についての理解についてお話をさせて頂いています。また、広島市からの依頼で、認知症ボーターの育成の研修の協力をさせて頂き、地域・広島市行政との関りを大切に地域・広島市行政との関わりを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム山ぼうしは、豊かな自然に囲まれた環境の良い場所に位置し、鉄筋コンクリート造り2階建ての耐震構造になっている。事業所の特徴的取り組みとして、家庭的な雰囲気を大切にして、利用者本位に安心して過ごせる普通の生活ができる空間を目指している。日々の外出、趣味等利用者の生活歴から残存能力を引き出し、リハビリを中心に環境作りに努め、家族の面会、地域との連携、ボランティアの協力と良好な関係を保たれている。今は新型コロナウイルス感染症予防の為、今まで行われていた行事や地域での行事も中止となり、事業所内での活動性を持って生活をし、パズル、書道、レクリエーション、野菜作りと創作活動を行い、その人らしい生活支援がされている。特に一人ひとりにその時々、易しい言葉かけが利用者の笑顔になり職員もなごみ、利用者と職員と一緒に学び、楽しみ、共に良い表情で一日を送れるよう日々を過ごされている。職員間の良好なコミュニケーション、医療機関との連携で、家族の一員として看取りまで取り組まれている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝の申し送り後に、山ぼうし理念を職員皆で復唱し、理念の実践に向け取り組んでいる。	山ぼうしの理念(常に利用者さんと家族の立場に立って考え行動をします。地域との連携を図り職員一同やりがいと満足感を持てるよう頑張ります)を毎朝朝礼で唱和し職員は共有し実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	地域の清掃活動の参加をしたり、地域の方が、ボランティアで入居者の方に遊びに来て頂いたり、施設内行事で、地域の民謡・歌謡クラブが披露しに来て頂いていましたが、今回は、新型コロナウイルス流行により、中止させて頂いています。	地域清掃活動、事業所での行事、ボランティアさんの訪問、事業所での行事に民謡、歌謡クラブが披露され楽しまれている。今はコロナウイルス感染症予防の為、中止になっている。玄関やバルコニーには、ボランティアの方が四季折々の花を植えられたり、近隣の方から野菜の提供があり地域の方と交流をされている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センターの依頼により、学校や地域に出向き、認知症サポーター養成講座を開催し、認知用についての理解と協力をお願いしています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催し、施設からの報告や参加者からの意見や報告を参考にし、運営に反映させて頂いている。	2ヶ月に1回家族、地域代表、民生委員、白木包括支援センター職員、管理者の出席で事業所での行事、活動報告、予定、利用者状況を行い出席者からの助言、提案を運営に活かしている。今はコロナウイルス感染症予防の為、それぞれに書類を送り意見、提案、情報を得て、書類上での運営推進会議となっている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活保護の入居者の方もいますので、生活課と密に連携を図り、情報交換やサービスの向上に取り組んでいる。	市役所生活課とは情報を交換し、分からない事は問い合わせている。生活保護の方の連絡は密にしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員で2か月に1回会議を開催し、話合った内容を職員全員で把握し、身体拘束をしたらいけない重要性を職員1人1人に自覚と理解を呼びかけられている。	身体拘束適正委員会を2ヶ月に1回開催し、ネットでの事例を上げて参加者一人ひとりの意見を聞き、職員全員で話合った内容を理解し拘束のないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	フロア会議の際には、虐待防止についての説明を行い、職員1人1人に注意と自覚を呼び掛けている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	施設内勉強会で、成年後見制度について説明を行い、成年後見の重要性やまた、成年後見の方との連絡を密に行い、入居者が、安心できるように取り組んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時・解約時・変更時に関しては、丁寧な説明を行い、理解に努めています。また、改定等ある時には、同意書を交わすようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	サービス担当者会議や、面会時に家族へ近況報告や運営推進会議での要望や意見などあれば反映するように取り組んでいる。また、1階玄関に意見箱を設けている為、意見があれば反映するように取り組んでいる。	家族には面会時や運営推進会議で意見や要望を聞き反映していたが、今はコロナウイルス感染症予防の為、面会ができず毎月近況報告、身体状況をお知らせし、家族の意見を聞き可能な限り対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	フロア会議や、業務中など常に管理者は職員とコミュニケーションを図り、意見交換を行うと共に、職員の考えや意見を反映させるように取り組んでいる。	管理者はフロア会議や業務中、職員の思い付きを聞き取り、話しやすい関係を築いている。職員の意見や提案は全員が共有している。勤務変更等柔軟にして働きやすい職場になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	親睦会を行う事で、職員間の親交を深め仕事のやり易い環境を作れるように取り組んでいる。また、勤務希望を取り入れる事で、無理なく仕事に取り組めるように努めている。有給休暇取得に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内勉強会で、個々のスキルアップを図り、実践に繋げている。また、仕事の内容も、皆が無理なく仕事ができる業務体制で行い、職員によって偏りのでない業務流れで構成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他施設との交流会を行い、認知症に関する映画を鑑賞する研修会を行ったりしている。また、合同勉強会も予定していたが、新型コロナウイルス流行に伴い、中止になっているが、また、終息した時に、開催する予定はあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始前に、本人の生活歴、情報収集を行い、面接の時に、本人からの要望や不安等を聞き、少しでも安心できるように努めている。受け入れる側として、利用者の満足、安心を一番に考え取り組んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始前に、家族から話を聴き不安な事や、要望を聞き計画に反映させています。また、サービス開始時には、生活の状況報告を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス開始前に本人や家族から、どんな事に困っているのかを確認し、施設入居してから必要としているサービスを可能な限り提供できるように取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員が全てを行うのではなく、入居者の持てる能力を生かし、機能に応じお盆拭きや洗濯物畳み・ゴミ袋折り・寝具のセッティング等取り組んで頂いている。また、入居者も自分の役割としてやりがいを持っておられる方もいらっしゃいます。本人の意思を尊重しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	半年に1回サービス担当者会議に出席して頂き、職員と家族と協力し、支えて行ける関係作りをおこなっている。また、可能な限り面会に来て頂き、家族と利用者との関係を築けるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	施設入居前からの馴染みの方などの面会や、電話連絡など、制限を設ける事はせず、いつでも面会や連絡をして頂けるようにし、関係が途切れないように努めている。	馴染みの方の面会、家族の面会、家族と外出で写真を撮りに行かれている。又、結婚式に出席される等外出されていたが、コロナウイルス感染症予防の為、面会や外出が出来なくなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者の性格もあり、合う合わないもありますので、無理に合わない者同士を近づけるのではなく、間には必ず職員が入り、仲を取り持つように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	当施設の利用を終了しても、家族様との関りを切らず、ボランティアで来て下さる等のいい関係を作っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン作成時に、利用者の希望や要望を取り入れケアプランに沿ったサービスの提供を行っている。また、その都度ご本人から要望があれば、可能な限り応えるように努めている。	利用者の意向や要望はケアプランに沿ったサービス提供を行い、今何がしたいか表情や意向を汲み取り思いや、意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に、本人の趣味や生活の状況など、情報収集を行い、極力今までして来た環境を変えないように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者の日々の状況を記録し、体調の変化やいつもと様子が違う事に気付けるように努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	家族・担当職員・入居者・介護支援専門員が半年に1回サービス担当者会議を開催し、意見交換を行い、現状にあった介護計画書を作成し、実施に努めている。	業務日誌を基に家族、利用者、担当職員、介護支援専門員が半年毎にサービス担当者会議を開催し、家族、職員、看護師、医師の意見を参考にして3ヶ月毎にモニタリングを実施し、目標に対して出来ているか職員で話し合い、介護計画の見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に日々の様子を記録し、状況に応じ、対応を検討している。また、3か月に1回モニタリングを行い、ケアプランに対しての評価や、プランの見直しを行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者の1日は、同じ毎日ではない為、その時々に合わせて、柔軟に対応するように職員一同、業務中心ではなく、入居者を一番に考え業務に取り組んでいる。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	年に1回、地域合同の消防訓練を行い、地域の協力の下、入居者の安全の確保に努めている。また、災害時は、当施設は、避難場所にもなっている為、災害時は、避難の受け入れを行っており、地域との連携を大切にしている。			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人や御家族より、希望する病院がある際には、主治医に相談し、紹介状書いて頂き、希望の病院に受診できるように努めている。	かかりつけ医による月に4回の往診と、毎週訪問看護師による健康状態の把握で健康管理をしており、24時間医療機関との連携体制を確保している。他科専門医での受診は家族、職員対応で行っている。以前から定期的に専門医で受診される方もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護・内科往診時に、個別の状況を職員が報告し、正確に伝える事で、先生や看護師も状態の把握ができるように努めている。また1人ずつ入居者に先生、看護師さんが話をし、直接入居者の様子を知る事で、適切な医療の提供を受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院とは、小まめに情報の共有を行い、少しでも早い退院と、退院して当施設に戻られてからも、状況に応じた治療や対応ができるように、情報交換を密に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に、当施設で行える範囲は説明を行い理解を得ている。基本看取りは行っていないが、家族様やご本人の希望があれば、協力医の指示の下、可能な限りは、終末期まで対応させて頂いています。	入居時、重度化された場合、看取りの指針を家族に説明している。事業所で行える事を伝える。重度化された時、家族の要望を確認し、医師の判断を基に家族、医師、訪問看護師、職員と連携を図り支援している。かかりつけ医による適切な指示の下、訪問看護師による点滴対応等でできる限り支援され、昨年1名の看取りをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内勉強会を行い、急変時や事故が起きた時に、早急に対応できるように取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に、消防訓練と水害訓練を行い、適切に職員が動けるように取り組んでいる。また、地域と合同の消防訓練も行っている為、地域との協力体制も構築している。	消防訓練、水害訓練を年2回行い、地域の方、消防署立ち合いの下、水消火器使用、避難手順、地域の方の見守りと協力しながら利用者の安全を確保している。災害時には2階が避難場所になっている。以前の災害時には地域の方が避難され、貴重な体験をしている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	フロア会議や、朝礼の際に、プライバシー保護に関する説明を行い、入居者の尊厳を重視し取り組んでいる。	会議の際にプライバシー保護について研修を行い、特にトイレ介助の時、ドアを閉めて介助する事に注意している。プライバシー保護については繰り返し注意している。利用者の人格を尊重し言葉かけに対応できるよう取り組んでいる。	入居者に対しての言葉使いやプライバシーについて、まだ十分ではないと思われており、今後接遇やプライバシー保護についての研修を実施して、職員の意識付けをされる事を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者とは、しっかりコミュニケーションを図り、その際に、本人の思いや、訴えに対し可能な限り提供できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務より、入居者を優先的に考えて動けるように、業務内容も色々と業務を詰め込まず、余裕のある業務流れで構成している。そうする事で、入居者の急な要望や、入居者の立場になって業務が取り組めるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の着たい服があれば、洋服を準備し本人の好みに合わせた服装になるように心掛けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	特定の入居者で、アレルギーのある食材に関して別メニューで提供し、安心して楽しく食事ができるように取り組んでいる。また、入居者のレベルに合わせた準備やお手伝いをお願いし協力し食事の準備や片付けを行うようにしている。	食材は配食業者から購入しており、3食とも食材から調理し手作りしている。アレルギーの方の献立は別メニューにし、状況によっては刻み食、ミキサー食、トロミ食を提供している。年間の行事食、イベントのおやつ作りは、利用者の好みを聞き手作りで、お寿司、お祝い膳、クリスマスケーキ、タコ焼き、ホットケーキ等を作っている。できる方は準備や片付け等一緒に行われている。職員と一緒に楽しめる食事となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分量の記録を行い、一日の平均摂取量を把握する事で、安定した食事量や水分量の提供に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に、洗面台に口腔ケアセットを準備し、自己でケアが出来る人は、個々でして頂き、自己で難しい人に関して、一部介助、もしくは全介助で口腔ケアを実施し、口腔内を清潔に保てるように努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、本人の意思を尊重しつつ、トイレ誘導を行う事で、失禁の防止に努めており、また本人希望時には、早急にトイレ誘導するように取り組んでいる。	今は、個々の介護記録作成にタブレットを使っていて、排泄表の記録を活用して、入力した個々の排泄パターンの記録を参考にして誘導し、できるだけトイレで自然に排泄できるように支援している。排便コントロールは医師の指示で薬を使って快便になっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	しっかり水分補給を行い、また、朝のラジオ体操やレクエーションで体操レクを取入れ、身体を動かす事で、腸の動きを良くし、便秘改善に努めている。また、便秘症でなかなか出ない方に関して、定期的に排便コントロールを行い、内服で定期的に排泄がみられるように対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は、週2回入浴日を、設けているが体調不良時や、本人の入浴の拒否がある際には、次の日に入れるように調整を行い、無理なく安心して入浴ができるように取り組んでいる。	週2回の入浴は、ゆっくりと入れられ楽しまれている。入浴拒否の方もあり、日を変えたり、声掛けを工夫したり対応している。状況によってはシャワー浴、清拭等支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人一人生活のスタイルが違う為、休みたい方には、いつでも休めるようにしている。なかなか、寝付けない方に関して、職員が安心して休めるようにゆっくりとコミュニケーションを図り、少しでも安心して入眠できるように取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	各入居者のファイルに処方されている薬の説明書を保管しており、職員が確認でき、副作用や作用について把握できるようにしている。また、職員が投薬に関して知識を深め、判断が難しい場合は、必ず先生や管理者に確認・相談を行った上で、投薬ができるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者の能力に応じた時間の過ごし方を提案している。手作りパズルや脳トレプリント、塗り絵等の提供を行っている。日々の充実が喜びに繋がり職員もやりがいを感じている。また、散歩で個別にお話しすることで気分転換を図るように取り組んでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気がいい日は、散歩にお連れし、気分転換を図れるように努めている。植物が好きな入居者がおられる為、小さな畑を作成し、野菜を育てる楽しみが出来、積極的に畑に行かれ、やりがいを感じられるように努めている。入居者から、外出の希望があれば、家族の協力の下、外出できるように取り組んでいる。	事業所の周辺は、散歩に最適でお天気の良い日は気分転換に出かけている。畑が好きな方がいらっやって菜園を作り、さつま芋、玉ねぎ、プチトマト、イチゴ等を植え、芋ほりをしてスイートポテトを作られている。畑がある事で積極性ができ楽しまれ、やりがいに繋がっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の希望があれば、本人管理にしている。また、施設で金銭を管理している入居者に関して、希望があれば購入している。御家族が金銭を管理されている方に関して、御家族に利用者の要望をお伝えし、購入して頂くように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を所持している方は、自ら連絡を行っている。本人、家族からの希望があればいつでも電話を取り次ぎ お話しをして頂いている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロア内は、極力シンプルにし、落ち着いた空間になるようにしている。季節に合わせて壁画を作成したり、季節の言葉の習字を書き、四季を感じられるように取り組んでいます。食事やおやつの時間には軽音楽をかけ 落ち着いた雰囲気作りにも努めています。	リビングは広く明るくテラスには花が植えられ、窓からは田や畑や山々が見え、季節の移ろいや作業風景が見え、開放感のある場になっている。壁面には、習字や季節に合わせた飾り付けがされている。温度、湿度の管理の中でリラックスして生活されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有スペースには、ソファや食卓を設置し、入居者がゆっくりと過ごせる環境を整え、入居者のご家族の面会時には、フロア内でゆっくりと過ごせるようしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今まで使用していた家具などを持って来て頂き、使い易い環境に整え、住みやすい環境になるように努めている。	居室には家庭で使われていた馴染みの家具、仏壇、テレビ、衣装ケース、ぬいぐるみ、カーグッズ、雑誌、ラジカセ等持ち込まれ、居心地の良い居室にされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	フロア内には、極力物を置かず、車椅子や歩行器が通りやすいようにしている。障害物を撤去する事で、転倒防止に繋げ、安心して生活が送れるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝の申し送り後に、山ぼうし理念を職員皆で復唱し、理念の実践に向け取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の清掃活動の参加をしたり、地域の方が、ボランティアで入居者の方に遊びに来て頂いたり、施設内行事で、地域の民謡・歌謡クラブが披露しに来て頂いていましたが、今回は、新型コロナウイルス流行により、中止させて頂いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センターの依頼により、学校や地域に出向き、認知症サポーター養成講座を開催し、認知用についての理解と協力をお願いしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催し、施設からの報告や参加者からの意見や報告を参考にし、運営に反映させて頂いている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活保護の入居者の方もいますので、生活科と密に連携を図り、情報交換やサービスの向上に取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員で2か月に1回会議を開催し、話合った内容を職員全員で把握し、身体拘束をしたらいけない重要性を職員1人1人に自覚と理解を呼びかけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	フロア会議の際には、虐待防止についての説明を行い、職員1人1人に注意と自覚を呼び掛けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設内勉強会で、成年後見制度について説明を行い、成年後見の重要性やまた、成年後見の方との連絡を密に行い、入居者が、安心できるように取り組んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時・解約時・変更時に関しては、丁寧な説明を行い、理解に努めています。また、改定等ある時には、同意書を交わすようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	サービス担当者会議や、面会時に家族へ近況報告や運営推進会議での要望や意見などあれば反映するように取り組んでいる。また、1階玄関に意見箱を設けている為、意見あれば反映するように取り組んでいる。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	フロア会議や、業務中など常に管理者は職員とコミュニケーションを図り、意見交換を行うと共に、職員の考えや意見を反映させるように取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	親睦会を行う事で、職員間の親交を深め仕事のやり易い環境を作れるように取り組んでいる。また、勤務希望を取り入れる事で、無理なく仕事に取り組めるように努めている。有給休暇取得に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内勉強会で、個々のスキルアップを図り、実践に繋げている。また、仕事の内容も、皆が無理なく仕事ができる業務体制で行い、職員によって偏りのでない業務流で構成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他施設との交流会を行い、認知症に関する映画を鑑賞する研修会を行ったりしている。また、合同勉強会も予定していたが、新型コロナウイルス流行に伴い、中止になっているが、また、終息した時に、開催する予定はあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始前に、本人の生活歴、情報収集を行い、面接の時に、本人からの要望や不安等を聞き、少しでも安心できるように努めている。受け入れる側として、利用者の満足、安心を一番に考え取り組んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始前に、家族から話を聴き不安な事や、要望を聞き計画書に反映させています。また、サービス開始時には、生活の状況報告を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス開始前に本人や家族から、どんな事に困っているのかを確認し、うちに入居してから必要としているサービスを可能な限り提供できるように取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員が全てを行うのではなく、入居者の持てる能力を生かし、無理なく出来る事は、職員と一緒に協力しながら行うように取り組んでいる。また、入居者も自分の役割だと思われている方もいらっしゃいますので、本人の意思を尊重しながら、お盆拭きや洗濯物たたみのお手伝いをお願いしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	半年に1回サービス担当者会議に出席して頂き、職員と家族と協力し、支えて行ける関係作りをおこなっている。また、可能な限り面会に来て頂き、家族と利用者との関係を築けるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	施設入居前からの馴染みの方などの面会や、電話連絡など、制限を設ける事はせず、いつでも面会や連絡をして頂けるようにし、関係を途切れないように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者の性格もあり、合う合わないもありますので、無理に合わない者同士を近づけるのではなく、間には必ず職員が入り、仲を取り持つように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	当施設の利用を終了しても、家族様との関りを切らず、ボランティアで来て下さる等のいい関係作っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン作成時に、利用者の希望や要望を取り入れケアプランに沿ったサービスの提供を行っている。また、その都度ご本人から要望があれば、可能な限り応えるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に、本人の趣味や生活の状況など、情報収集を行い、極力今までして来た環境を変えないように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者の日々の状況を記録し、体調の変化やいつもと様子が違う事に気付けるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	家族・担当職員・入居者・介護支援専門員が半年に1回サービス担当者会議を開催し、意見交換を行い、現状にあった介護計画書を作成し、実施に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に日々の様子を記録し、状況に応じ、対応を検討し対応している。また、3か月に1回モニタリングを行い、ケアプランに対しての評価や、プランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者の1日は、同じ毎日ではない為、その時々に合わせて、柔軟に対応するように職員一同、業務中心ではなく、入居者を一番に考え業務に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	年に1回、地域合同の消防訓練を行い、地域の協力の下、入居者の安全の確保に努めている。また、災害時は、当施設は、避難場所にもなっている為、災害時は、避難の受け入れを行っており、地域との連携を大切にしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人や御家族より、希望する病院がある際には、主治医に相談し、紹介状書いて頂き、希望の病院に受診できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護・内科往診時に、個別の状況を職員が報告し、正確に伝える事で、先生や看護師も状態の把握ができるように努めている。また1人ずつ入居者に先生、看護師さんが話をし、直接入居者の様子を知る事で、適切な医療の提供を受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院とは、小まめに情報の共有を行い、少しでも早い退院と、退院して当施設に戻られてからも、状況に応じた治療や対応ができるように、情報交換を密に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に、当施設でできる範囲は説明を行い理解を得ている。基本看取りは行っていないが、家族様やご本人の希望があれば、協力医の指示の下、可能な限りは、終期末まで対応させて頂いています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内勉強会を行い、急変時や事故が起きた時に、早急に対応できるように取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に、消防訓練と水害訓練を行い、適切に職員が動けるように取り組んでいる。また、地域と合同の消防訓練も行っている為、地域との協力体制も構築している。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	フロア会議や、朝礼の際に、プライバシー保護に関しての説明を行い、入居者の尊厳を重視し取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者とは、しっかりコミュニケーションを図り、その際に、本人の思いや、訴えに対し可能な限り提供できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務より、入居者を優先的に考えて動けるように、業務内容も色々業務を詰め込まず、余裕のある業務流れで構成している。そうする事で、入居者の急な要望や、入居者の立場になって業務が取り組めるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の着たい服があれば、洋服を準備し本人の好みに合わせた服装になるように心掛けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	特定の入居者で、アレルギーのある食材に関して別メニューで提供し、安心して楽しく食事できるように取り組んでいる。また、入居者のレベルに合わせた準備やお手伝いをお願いし協力し食事の準備や片付けを行うようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分量の記録を行い、一日の平均摂取量を把握する事で、安定した食事量や水分量の提供に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に、洗面台に口腔ケアセットを準備し、自己でケアが出来る人は、個々でして頂き、自己で難しい人に関して、一部介助、もしくは全介助で口腔ケアを実施し、口腔内を清潔に保てるように努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の時排泄パターンを把握し、本人の意思を尊重しつつ、トイレ誘導を行う事で、失禁の防止に努めており、また本人希望時には、早急にトイレ誘導するように取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	しっかり水分補給を行い、また、朝のラジオ体操やレクリエーションで体操レクを取入れ、身体を動かす事で、腸の働きを良くし、便秘改善に努めている。また、便秘症でなかなか出ない方に関して、定期的に排便コントロールを行い、内服で定期的に排泄がみられるように対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は、週2回入浴日を、設けているが体調不良時や、本人の入浴の拒否がある際には、次の日に入れるように調整を行い、無理なく安心して入浴ができるように取り組んでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人一人生活のスタイルが違う為、休みたい方は、いつでも休めるようにしている。なかなか、寝付けられない方に関して、職員が安心して休めるようにゆっくりとコミュニケーションを図り、少しでも安心して入眠できるように取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	各入居者のファイルに処方されている薬の説明書を保管しており、職員が確認でき、副作用や作用について把握できるようにしている。また、職員が薬の投薬に関して、投薬の判断が難しい場合は、必ず先生や管理者に投薬の確認を行った上で、安心して薬の投薬ができるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者の意思を尊重しつつ、本人がやりたい事を確認し、可能な限り提供する事で、日々充実した日が過ごせるように取り組んでいる。また、天気がいい日には、散歩にお連れし、四季を楽しみつつ気分転換を図れるように取り組んでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気がいい日は、散歩にお連れし、気分転換を図れるように努めている。植物が好きな入居者がおられる為、小さな畑を作成し、野菜を育てる楽しみが出来、積極的に畑に行かれ、やりがいを感じられるように努めている。入居者から、外出の希望があれば、家族の協力の下、外出できるように取り組んでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の希望があれば、本人管理にしている。また、施設で金銭を管理している入居者に関して、希望があれば購入している。御家族が金銭を管理されている方に関して、御家族に利用者の要望をお伝えし、購入して頂くように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を所持している方は、自ら連絡を行っている。本人から、家族に連絡をして欲しいとの要望があれば、連絡するようになっている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロア内には、極力シンプルにし、落ち着いた空間になるようにしている。季節に合わせて、四季にあった飾り付けを行い、四季を感じられるように取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有スペースには、ソファや食卓を設置し、入居者がゆっくりと過ごせる環境を整え、入居者のご家族の面会時には、フロア内でゆっくりと過ごせるようしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今まで使用していた家具などを持って来て頂き、使い易い環境に整え、住みやすい環境になるように努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	フロア内には、極力物を置かず、車椅子や歩行器が通りやすいようにしている。障害物を撤去する事で、転倒防止に繋げ、安心して生活が送れるように取り組んでいる。		

V アウトカム項目(1F)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム 山ぼうし

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

V アウトカム項目(2F)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム 山ぼうし

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム 山ぼうし

作成日 令和3年1月16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	36	入居者のプライバシーと尊厳に関して、まだまだ声掛けや、対応についてしっかり出来ているとは言えない。	職員が入居者の立場を理解し声掛けや対応を考えながら行える。	フロア会議や申し送りの際に、皆で話し合い、注意を呼びかけ、職員の意識付けを行って行く。	2ヵ月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。